

わかりやすい原子力問題解説書

原子力問題は、もはや物理学者だけの問題ではなくなった。すべての人が知らなければならない原子力時代の常識を、しろうとにもわかるように解説した一般教養書として世に送る。

東洋経済新報社

アイディノフ・ラクリス共著
金 関 義 則・吉沢孫兵衛訳

百万人の原子学

B6判・¥ 350

ほかの原子力解説書に比べて、体系的で、しかもわかりやすい。物理化学の基礎知識がえられるばかりでなく、その社会的歴史的な意義もよくわかった。(一高校生)

いくたびか原子物理学の解説書を読みかけて内容を理解できなかった人は、もう一度、だまされたつもりで、この本を読むがよい。(週刊サンケイ)
百万人の原子学解説書として、申分のない良書であろう。(朝日新聞)

杉本朝雄・山崎文男著

産業における原子力の応用

B6判・¥ 270

物理学のしろうとが読んでわかる入門書であり、広く、経済・工業・産業・社会人に向く、平和と建設の原子力解説書である。(朝日新聞)

原子動力の意義を明らかにし、その産業への影響と利用価値を考察するためのよき手づるである。(毎日新聞)

これまでの原子力書とちがっているところは、原子炉についてくわしく解説している点や、もう試験的段階にある原子動力の諸方式や、放射性同位元素について、検討していることなどである。(菅井準一)

崎 川 範 行 著

エネルギー物語 火から原子力まで

B6判・¥ 250

看板に偽りなしで、火の発見から水爆実験までを解説したエネルギー読本。歴史の道筋に従って問題を展開し、説明も平易で穏当である。(自然)

近ごろ気味にエネルギー、エネルギーといい出した半面、エネルギーそのものをくわしく語った本はほとんどない。異色のある本である。(科学朝日)

近 浜田成徳序 和田正信著

電子は見る聞く考える

B6判・予¥ 250

ラジオ・テレビ・人工頭脳その他電子を利用した機械や装置を解説するエレクトロニクス読本であり、電子物語である。

J.S.
・H.
・シ
・ニ
・ユ
・ア
・ツ
・ク
|
監
修

原子力発電の経済的影響

湯川秀樹序 森 一久訳

原子力発電の経済的影響

SCHURR & MARSCHAK ECONOMIC ASPECTS OF ATOMIC POWER

湯川
一秀
久樹
訳序

東洋経済新報社